

## 令和5年度第4回 ゆうきの里を育てよう連絡協議会 議事録

### 1. 開会・進行

田中課長

### 2. 協議事項

#### (1) 有機農業産地づくり支援金事業の進捗状況について（農業振興係長説明）

- ・講演会・食育の推進
- ・味覚・栄養検査の結果
- ・武蔵野市への視察報告
- ・認証制度について
- ・一般社団法人グリーンみらい・まつかわについて

吉田アドバイザー

食材選定の「安全性が確認できる書類」というところがあるが、いわゆる参加型認証はいかがか。武蔵野市も実際に栄養士さんや調理員さんが農家さんを訪ねて顔を見て調達していると聞いたことがある。町内でならそのような形でもいけるのではないかと思う。

事務局

栄養士とも相談していく。

#### (2) 令和6年度有機農業産地づくり支援金事業計画(案)について（農業振興係長説明）

ゆうき給食とどけ隊会長

今の世の中の状況は、米農家にとってとても厳しい状況。収益が上がらない中に販売単価が安く利益が上がらないというものもある。米(有機)農家を増やそうとしても、販路もなく収益も上がる見込みがないとなると広がりが見えないのではないか。しかし松川町は有機栽培の研修や取組が展開してきているので、そこをうまく米農家の皆さんにも向き合ってもらい、お米に付加価値をつけたり販路を獲得したりして、収益につながるような米作りを目指して、自分たちも先につながっていくような体制でやってもらえるにあたって、町で今は「ゆうき給食とどけ隊」という生産者グループ、給食に特化したくくりがあるが、もう少し広い範囲、環境保全部会のようなくくりでバックアップしてもらえたらまた動きが変わってくるのではないかと思うので、検討いただきたい。

事務局

農協と相談していきたい。

吉田アドバイザー

販路について、世田谷区はゆうき給食に入れるということで購入を始めている。そのようなところと連携して採算性の付く単価で購入してもらおうということは始めて行った方が良いのではと思う。

事務局

もし本当にお米を広げていくとなると販路を獲得しなければならない。例えば大阪府の泉大津市は有機米を毎年入札で購入している。手を挙げることはできるが、量を確保するために作る人もそれなりに作らないといけないが、プレゼンして外れたら販路がなくなってしまうことになる。難しい課題もあるが、考えていきたいと思う。また営業についても考えていかなければならない。

農業委員会長

町内で賛同して米作りの仲間はできそうか。

ゆうき給食とどけ隊会長

技術面で割に合っていないと思っていない人もいるのではないかと推測する。この課題に対しては自然農法センターにお世話になり、3年間積み重ねている部分があるというのは、何もない状況よりかは取り掛かりやすいと思う。販売単価は相場とは違うレベルで販売可能と考える。そこは農家にとっても希望を持ってもらえるような道ができればと思う。

南信州農業農村支援センター

米は有機栽培の中でも取り掛かりやすいし機械化しやすいと思う。ただ、有機栽培というものがわからない部分があるので、久保田さんの実績や、管理方法や収量・望める販売単価などを資料としてまとめ、有機に興味のある方を集めて勉強会を開催したらどうか。“有機米にチャレンジしてみましよう”などと活動をして仲間を集めるのはいかがか。

農業委員会長

県内や飯田下伊那ではこのような有機米の取組はあるか。

事務局

大きくやっているところは少ないとみる。

JA みなみ信州松川支所

栽培方法や技術についてもだが、お米として最終的なライスセンターの仕組みについても課題が残る。今は農協のライスセンターを使ってもらっているが、個人対応できるのが令和6年までとなる。令和7年度からは高森と一緒に、場所も高森になる。

お米の販売単価が伸びないうえに農薬代も上がっている。ライスセンターの維持・管理に関しては、これ以上生産者に負担をかけられないということで集約化も考え、共同張り込み方式に変更になる。

そのような部分でライスセンターとしての有機の皆さんの対応も今後課題になってくると思う。有機のグループの面積等が大きくなってくれば、有機の刈取日を設定するなどして対応できるかと思うが、まだそこまで広まっているわけではないと思うので、今後検討が必要と思う。

### (3) 化学肥料低減定着対策による堆肥散布機の導入について（農業振興係長説明）

農業委員会長

堆肥散布機の管理はグリーンみらい・まつかわということだが、保有はゆうきの里を育てよう連絡協議会となるのか。

事務局

そのとおり。

### 3. 役員を選出

監事 北沢 ひろみ（松川町農業委員会会長代理）

監事 小沢 文人（松川町商工会代表商工会長）

### 4. アドバイザー吉田太郎さんより

「動き出したオーガニック 国内外各地の事例報告から」

- ・アグロエコロジー（有機農業）が鍵
- ・各地で進むオーガニック
- ・風景を作る食と脱成長

### 5. 閉会